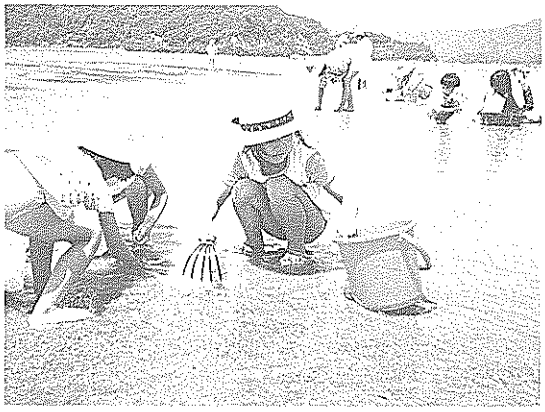
潮干狩り

母子寡婦福祉連合会副会長　阿部次子



貝掘りを楽しむ子供たち

七月末の日曜日、福祉事務所の招きで市内の母子・父子家庭の親子、総勢五十余人が宇佐の天皇州で貝掘りを楽しみました。

長雨にへきえきしていた時分でしたが、当日は夏がやっと全開かと思われる好天気。一行は市役所が用意してくださった冷房がほどよくきいた大型の観光バスで一路目的地の宇佐へと向かいました。約一時間弱の車中では、クイズに興じたりバスガイドさんの案内に耳を傾けたりしながら過ごしました。

騒々しい街中をひた走り、荒倉トンネルを抜けると、そこは弘岡。右に左に広がる畑にはスイカの玉が転び、メロンがぶらさがる、さすが園芸地と思わせる風景。木立の緑のにおい、稲のにおい、気のせいか、かすかに磯の香りも漂ってくるようでした。

宇佐の休憩所で少し早めの昼食を済ませ、心がはやるままに浜辺へと急ぎました。

到着したときは天皇州がほんのわずか見えていただけでしたが、潮の満干は正確で、瞬く間にまるで運動場のような一面の浅瀬が広がりました。渡し船で州に渡り、思い思いの場に陣取って背を丸め、しばし無言で砂を掘りました。

手慣れぬ自分をからかうように、足元のそこここの穴から一筋、また一筋と潮が吹き上がります。「よしっ」と鍬を入れると一列縦隊の貝の手ごたえ。歳がいもなく心が躍りました。みるみるうちにバケツいっぱいに。

バケツの中で「キュッ、キュッ」と小さい貝が鳴きます。「この海でもっともっと大きく育って」と思う気持ちと「せっかく捕ったのに」と思う気持ちが心の中でしばし討論。

伸び上がって周囲を見回すと、みんな黙々と貝を拾っています。空には入道雲、遠くで鳴くせみの声、子供たちの歓声、日常のもろもろの雑事を忘れて海辺で過ごす一時。

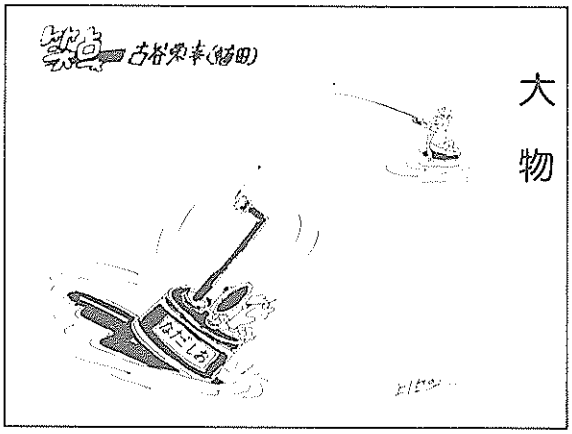
やがて約束の時刻となり、三々五々集まってきました。日焼けした顔はどれも満足げで、帰りのバスの中は踏み場もないほどの貝。みんな終日を全身で楽しんで疲れたのか、眠ったり車窓に移る景色に目を遊ばせたりしていました。

来年もこのだいご味をみんなで味わいたいと思いました。

ほのぼの広場

『ほのぼの広場』に、あなたの身の回りのほのぼのとした話題や我が家の自慢料理、読書の感想など、お気軽にご投稿ください。

▼投稿先●〒783　南国市大埇甲二三〇一　南国市役所内広報委員会まで。



大物

ご家庭で話し合って答えてください。答えはこの広報に出ています。

◪**もんだい**　このほど、新川にかかっている○○○橋の改良工事が完了しました。

◪**しめきり**　9月15日

◪**あて先**　〒783　南国市大埇甲二三〇一　南国市役所　広報委員会親子クイズ係

◪答えのハガキには必ず、**住所、氏名、年齢、職業**を書いてください。

◪**賞品**　正解者のなかから抽選で五人に図書券を進呈。

第196回当選者発表（敬称略）

（応募総数33通）

◪**答え**　3

◪**当選者**

宮中理恵（物部）
久岡懐子（岡豊町小蓮）
久万一江（稲生）
竹崎光枝（岡豊町中島）
北村充（立田）